

木津川川ガキ団  
みんなで作る木津川イ  
チ推し

生きもの図鑑

2023年度活動発表

神田華歌（小学3年） 神田晃良（年少） 井上敦之（小学6年）  
赤畠一向（小学5年） 久富浩輝（小学3年） 久富翔太（小学6年）

# 神田華歌（小学3年）

木津川川ガキ団では、木津川の本流や支流で活動しています。

木津川は、三重県及び京都府を流れるよどがわ水系の支流で、一級河川です。

川ガキ団では、魚とりや川流れ、土木工事をしています。淀川河川レンジャーの活動として、**10**年以上活動しています。**2023**年では、約**80**人で活動していました。

その活動を通して、色々な生きものがいることや川についての正しい知識を知ることが出来たり、川が好きな仲間と川で遊べたりできて楽しいです。

今回は、木津川川ガキ団みんなで作る木津川イチ推し生きもの図鑑というタイトルです。聞いてください。

# 神田華歌（小学3年）

## 川の中の小さな世界

一滴の川の水を顕微鏡でのぞいたら、たくさんの生き物がいたことにおどろきました。調べてみたら、プランクトンでした。プランクトンとは、泳ぐことができないか、泳げても力が弱く水の流りにただよって生活している生きもののことです。クラゲのような大きな生き物もプランクトンです。

プランクトンには、光合成をする植物性プランクトンや、水の中を動き回り他のプランクトンを食べて生活する動物性プランクトン、またその両方の特徴を持ったプランクトンがいます。

川の水を顕微鏡でのぞいてみると右上の写真のような、プランクトンが見えます。

# 神田華歌（小学3年）

その中でも、私の面白いと思ったプランクトンを3つ紹介します。

1位 イカダケイソウ

面白いところは、玉すだれのように動くところです。

2位 アメーバ

面白いところは、スライムのように体の形を自由に変えることが出来る所です。

3位 マユガタミズケムシ

面白いところは、コマのように回りながら動くところです。

# 神田華歌（小学3年）

そして、プランクトンは私たちの生活でも役立っています。

例えば、

プランクトンは、有機物を分解してくれるので、浄水場で水をきれいにするのに、大活躍しています。

植物性プランクトンの一種のケイソウが死んで、積み重なってできた化石、たい積物を「けいそうど」といい、燃えにくさや、保温性、吸湿性があるので、壁土などに使われています。

# 神田華歌（小学3年）

光るクラゲなどのプランクトンからとられた光る物質は、いろいろな研究や、がんなどの病気を見つける魔法のしるしとして、病院や研究室で大活躍しています。

この光る物質を発見した日本人の科学者は、ノーベル化学賞を受賞しています。

プランクトンを調べていると、プランクトンを研究している人や会社がたくさんあることも知りました。

# 神田華歌（小学3年）

植物性プランクトンと動物性プランクトンの両方の特徴を持ったミドリムシというプランクトンは、植物と動物の2つの栄養を持っているので将来起こると言われている食糧難も、ミドリムシで解決できないか研究している人たちがいます。

石油のような油を作るプランクトンを研究している人もいます。

そのプランクトンが将来起こるといわれているエネルギー問題を解決してくれるかもしれません。

# 神田華歌（小学3年）

水の中の世界はとても面白いので皆さんにも見てほしいです。

次の目標は、普段川ガキ団で魚とりをしている川を工事したので生きものがいなくなっていました。

プランクトンは、個体としては弱いけど、その種としては強いのでまた増えていくと信じています。

プランクトンをとおして、生きものが増えていく様子を観察していきたいです。



神田晃良（年少）

ぼくは、どんこがすきです。

おめめが、かわいいです。

# 井上敦之（小学6年）

我が家のスッポン

我が家で飼っているスッポンの名前は、スンちゃんです。

スンちゃんの甲羅には、黒い斑点があり、首には白い斑点があるため、“キョクトウスッポン”だと考えられます。

スンちゃんの甲羅は、他の亀と比べると柔らかいけど、表面はゴツゴツしています。

前足の付け根はすごくプニプニで、一生触っていても飽きません。

# 井上敦之（小学6年）

少し前に、飛行機に乗る時に、スンちゃんが受付の人に

“スン様“と言われて、名前のランクがアップしました。

次に亀とスッポンの違いについて2つ紹介します。

まず1つ目は、カメの甲羅は石のように固いけど、スッポンの甲羅は、ゴムのように柔らかいです。

その理由は、スッポンの甲羅の多くがコラーゲンによって形成されているからだそうです。

# 井上敦之（小学6年）

次に2つ目は、亀の指の数は5本で水かきはないが、スッポンの指の数は3本で水かきがあるということです。

このちがいは、亀とスッポンで住んでいる場所の違いに関係しています。

それは、亀は水陸両方で生活するけど、スッポンは基本的に水中で生活するため、指は3本で、かわりに水かきがあります。

これは水中でより泳ぎやすいようにするために、進化の過程で変化したと考えられます。

以上で、スッポンについての発表を終わります。

# 赤島一向（小学5年）

ぼくは、去年の10月9日に、木津川の支流の萩の谷川でオオクチバスをガサガサでとりました。大きさは**15センチ**でした。

これはその時のオオクチバスを 乾燥標本にしたものです。にほんのさかなにはないかっこいいからだったので、観察するために標本にしました。

口が大きくて、背びれにおおきなとげトゲがあります。

調べてみるとオオクチバスは1歳で10センチ、2歳で20センチと書いてあったので、**1歳か2歳**くらいだと思います。

60センチに成長するには15年から20年くらいだそうです。

# 赤島一向（小学5年）

ナマズを飼育した時は、1年で30センチくらいになりました。水ごとエサの魚をすいこんだので、あまり水は汚れませんでした。

コイを飼育した時は、水草やなんでも食べるので、大きくなるの

はもっと早かったです。

何でも食べて、水はとても汚れます。

ブラックバスは飼育できないので、どんなふう食べるのか、水を汚すのか、見ていないのでわかりませんが、ナマズもコイもとても食べます。

鳥のカワウなども、日本の固有種をばくばくたくさん食べています。

# 赤島一向（小学5年）

ブラックバスだけが たくさん食べる悪者のようになっていることは悲しいです。

たとえば、ブラックバスをたくさんとって、たくさん殺して、

日本の絶滅しそうな魚などを入れるのは違う気がします。

理由は、同じ命なのに、重さを違うようにみせているからです。

海の魚みたいに、殺すだけなら一度は食べてみてほしいと思います。

# 赤島一向（小学5年）

ぼくは去年、ブラックバスも、ブルーギルも自分でさばいて食べてみました。

持ち帰って泥ぬきができないので、キレイな場所で釣って食べました。

ブラックバスの身は白くてふわふわで、スズキに似ています。

とてもおいしいので、みんなが食べたくなってしまったら、外来種だけど、ブラックバスも絶滅危惧種になってしまうかもしれませぬね。



# 赤島一向（小学5年）

ブラックバスだけの川になるのは悲しいけれど、魚もどうやって生きて行こうか色々考えていると思います。

ぼくは、ブラックバスも他の魚も好きなので、どんな魚もたくさんいてほしいと思います。

ブラックバスも、ひとつの命だからです。

ただ殺してしまうではなくて、他の魚と同じ命の重さで、

どうにかできないかと考えています。

# 久富浩輝（小学3年）

ぼくは、5月に、はぎのたに川で、カマツカをつかまえました。

草がはえていて、すながある所を、あみでガサガサしてとりました。

カマツカは、馬みみたいな長い口と大きな顔で、ひょうがらみみたいな、めいさいもようがあります。

エサを食べる時は、前に進みながら、砂ごとすいこんで、砂だけエラから出します。

見ているとすごくおもしろいです。

# 久富浩輝（小学3年）

そして、おくびょうなせいかくで、ビックリすると、すごい早さで動き回って、砂の中にかくれます。

このしゅうせいから、

「スナホリ」「スナモグリ」とよばれることもあって、

ほかにも、そこを、はいまわるようすが、海のキスに、にているので、「カワギス」、

エラからすなを出すので、「スナフキ」という、別名もあります。

# 久富浩輝（小学3年）

大きな目玉だけ動かして、きょろきょろまわりを見ているすがたが、かわいいです。

木津川はすなが多い川なので、カマツカにはすごくすみやすい川だと思います。

すなにかくれるカマツカは、見た目もかわいくて、木津川のかくれたアイドルです。

今度はもっと大きなカマツカをとってみたいです。

ぼくのカマツカ四コマげきじょうも、読んでみてください。

# 久富翔太（小学6年）

僕は、6月に、ナマズの幼魚を捕まえました。

何匹かとった中で、元気な5センチくらいのナマズを、家で飼うことにしました。以前から、ナマズが好きだったので、ナマズが幼魚から成魚にどんな風に成長していくか見たかったからです。

最初、エサは赤虫をあげました。ちゃんと飼えるか心配だったけど、環境にもエサにもすぐ慣れて、よく食べて、ぐんぐん大きくなっていました。

# 久富翔太（小学6年）

飼い始めて1か月くらいの頃、色がゴールドのようにかがやく黄色になりました。餌を食べる時に、砂も吸い込んでしまうと聞いたので、底砂をひいていなかったせいかなと思いました。だんだん大きくなるにつれて、茶色のまだら模様がでてきて、ナマズらしい色に変わっていきました。

土管に入るのが好きで、昼間はほとんど土管の中でしたが、どんどん成長して、土管がせまくなるので、大きくなるたびに、土管を大きくしていきました。

# 久富翔太（小学6年）

とにかく食欲がおうせいで、赤虫と、川でとってきたエビ、ザリガニ、小魚をあげていました。ナマズには、味を感じる、味蕾（みらい）という組織が、体全体に20万個あります。

人間の大人では、およそ5千個です。

ナマズは全生物の中で、最もみらいの数が多いそうです。

水の中でも、味で食べ物の場所がわかります。

ナマズに、一番おいしい食べ物は何か、一度聞いてみたいです。

# 久富翔太（小学6年）

また、夜行性で、昼間はじっとしているのに、夜は激しく動き回るので、家族みんなが寝ている時に、バシャバシャ音がすると、水槽から飛び出してないか心配になって、何度も水槽を見に行っていました。

そして、11月に、20センチくらいに大きくなったナマズを木津川に逃がしに行きました。

川の中に放すと、元気にスイスイ泳いでいきました。今でも木津川でのびのび元気に暮らしてほしいです。

また、僕がこれからチャレンジしてみたい事は、琵琶湖で、ビワコオオナマズと、弁天ナマズ、ギギを獲ることです。



# 久富翔太（小学6年）

これからも木津川川ガキ団として、川で安全に楽しく遊んで、たくさんの生き物にふれあっていきたいです。また、身近にある木津川の素晴らしさ、そこに住んでいるたくさんの生き物の事をもっとたくさんの人に知ってもらって、木津川を大好きになってほしいです。

そして、同じ水辺の活動をしている、他の地域の人たちと交流を深め、その輪が広がって、みんなで川を守れたらいいなと思っています。